

五能線の旅 & 酸ヶ湯温泉・樹氷を求めてトレッキング

齊藤 整紀

●2019年3月17日(日)～18日(月)

●メンバー 齊藤整紀(CL)、さち子(妻)

●始めに

3月16日(土)に秋田の兄の3回忌があり、その翌日から2日間「青森」で遊んだ。初めての五能線の旅と斜陽館、浅虫温泉それに酸ヶ湯温泉は外せない。地方の公共乗り物は乗継が悪いため、五所川原～金木～弘前～青森間はレンタカーを使った。

●コースタイム

3月17日(日) 曇り時々雪

金足・追分駅(リゾートしらかみ①)8:32⇒12:08 五所川原駅(タクシー)⇒トヨタレンタ 12:30(カー)⇒金木・斜陽館(昼食)13:00～14:00(カー)⇒弘前城・スタバ(ティー)15:00～16:10(カー)⇒17:15 トヨタレンタ-青森安方店→青森駅18:10(青の森線)⇒18:32 浅虫温泉駅→18:40 南部屋・海扇閣《泊》

前夜は法事の飲酒で、早朝の車の送りは諦めタクシーを予約した。最寄りの金足・追分駅前で柔道部の後輩に挨拶してから特急に乗る。木製基調で程よい座席。東能代駅から五能線に入る。列車方向が変わり、海側席の予約通りになる。ゆっくり走り、駅によっては長く停まる。大間越街道と並行して、海岸ぎりぎりを走り、眺めの良い海岸線はカメラ用に速度を落とす。



また、しらかみ1号は「樺」の愛称で、売店車両は、地酒の量り売りが楽しめる。如何せん、レンタカー運転を悔やんだ！先頭車両の津軽三味線の生演奏が佳境に入った頃、五所川原駅で降りた。トヨタレンタから久しぶりの運転である。ウィッツで運転もナビも操作が易しい。雪がちらつく中、金木は小さな町で、目指

す斜陽館はすぐ分かった。心配した駐車場はすぐ前の売店に大きいのがあり問題なし。太宰の生家の津島家は相当裕福だったことがわかる。



津軽は、雪空で、積雪のない秋田よりも寒い。こんどは弘前へ南下。依然、岩木山は厚い雪雲で覆われ、太宰の「津軽」の十二単を纏った眺めはお預け。

妻の友人がお父さんを弘前の施設に入れたとのことで弘前の話題が多くなったので、是非弘前に行きたい、というので、弘前城公園を目指した。小さな天守閣は昔の面影はないが桜の木はやはり美しい！



市役所前のオシャレな洋館にスタバが入っていたのでティータイム。



青森駅までは高速を使うと速いが、返車のトヨタ安方店を探すのに苦労した。

青森駅から浅虫温泉駅までは青い森鉄道に名を変えた電車で行く。昔はこのラインが東北本線で、中学時

代に兄と夜行列車の終点・浅虫温泉に降りたことがある。50年以上昔だが駅前の小島の景色は記憶がある。

3月18日(月) 晴れのち曇り

浅虫温泉駅 7:13 (青の森線) ⇒ 7:39 青森駅 8:00 (バス) ⇒ 9:10 酸ヶ湯温泉 9:30 → 地獄湯の沢 → 仙人岱 11:30 <下山> → 13:00 酸ヶ湯温泉 <入浴・昼食> 15:25 (バス) ⇒ 16:45 新青森駅 18:38 (新幹線) ⇒ 22:04 東京駅

6時45分に朝食を摂り、浅虫温泉駅7時13分発に乗車。今日は昨日と打って変わって、天気が良い。青の森線は2両編成で、乗降口は一つ。電車で朝の日差しが眩しい。通勤・通学風景はローカルである。

JRバスの朝一の酸ヶ湯温泉行バスはウィークデーは空いている。八甲田連山は白く輝く。またバスが高度を上げると、岩木山の絶景スポットで小休止。車道の両端の雪が4~5mの高さになった頃、八甲田スキー場に至る。ほとんどがここで降りる。残る4~5名だけが終点の酸ヶ湯温泉へ。程なく1棟堂々たる存在感ある温泉宿が迎える。廻りの雪と長い氷柱が印象的。



妻をここに残して身支度を整える。雪壁に取り付く前にワカンを装着。神社の鳥居は雪で見えないが、踏み跡は少しある。樹林帯に入ると幾つかのコースの踏み跡が合わさり、しっかりしたトレースになる。落葉樹が進むに連れ、アオモリトドマツに替わり、皆雪を被っている。辺りは雪でも硫黄の匂いが漂う。

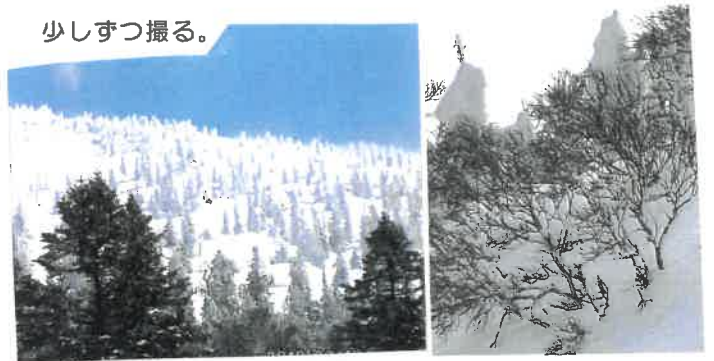


沢に入り左に方向を転じると、地獄湯の沢で、硫黄

の匂いはさらにきつくなる。しばらくは夏には考えられない程見晴らしも良く邪魔ものも少なく、広々とした解放感が堪らない。しかし雲が急に動きを速め、あっという間に大岳を隠し、風を伴ってきた。10人程私の後ろにいたが、雪煙が谷を走るようになって、ほとんどが帰ってしまった。



仙人岱を望む地点からは樹氷を少し見だし、厳冬期の身なりでないため、私は帰ろうと向きを変えたところ3人のパーティに出会った。「樹氷を見に来た」と話すと、「もうひと頑張りして仙人岱まで上がると樹氷がたくさん見られる」と女性リーダー。そこで、また踵を返し、上を目指す。寒いが暴風地帯ではフード付きヤッケには着替えられない。我慢して高台に上がると、別世界が広がる。様々な形のミニモンスターだらけで、強烈な風雪に耐える姿が凄い。寒さでカメラのシャッターが連続では切れない。カメラを温めながら少しずつ撮る。



完全な厳冬期の世界に長居は無用!3人に別れを告げて下山。ところが、今度は風が真面で目が開けられない。ゴーグルが欲しい。姿勢を低くして何とか暴風エリアを脱出した。樹林帯まで戻るとフカフカの平和な雪歩きをエンジョイした。

酸ヶ湯温泉宿に戻ると、ロープウェイが風で止まりスキーヤーが詰めかけている。妻と昼食を取り、名物の千人風呂に入る。風呂上がりの田酒が堪らない!

帰りは新青森駅で降りて、新幹線で帰京の旅だった。駆け足だが充実した二日間であった。(了)